

6. 教員の養成に係る教育の質向上に係る取組み

6.1 KIT オナーズプログラム

KIT オナーズプログラムは「自ら考え行動する技術者」に向けて自ら目標を設定し、それを達成するために活動する自己目標達成プログラムで、「学科・課程・研究室に関するプログラム」「夢考房プロジェクトプログラム」「産学・地域連携教育研究プログラム」「教育支援センターに関するプログラム」「学友会に関するプログラム」の5種類がある。その中の一つで教職課程のオナーズプログラムとして、教師になることを目指している学生を対象に、授業だけでなく正課外での活動を通し、教員としての資質・能力・実践的指導力を身につけられるように「教師としての実践力向上プログラム」がある。

プログラム名	教師としての実践力向上プログラム
プログラム概要	中学校や高等学校の教師になるためには、教職と担当する教科に関する専門知識と、それらを学校現場で活用する実践力が必要である。教師を希望する学生は、大学の4年間でそれらを身に付けなくてはならない。専門知識については、大学の授業で身に付けることができるが、実践力は課外活動の中で獲得していく必要がある。本プログラムは、教職課程履修学生を対象として、教師としての実践力を獲得させるための活動である。その活動では、まず参加学生が、教師になるためにはどのような実践力が必要で、それを身に付けるためにどのような活動をすべきかを考えることから始める。その後、具体的な活動として、学校ボランティアへの参加、学生による模擬授業の練習会、教員採用試験対策勉強会を実施する。その際、これらの活動を上位学年生が中心の学生主体で運営する。これにより、ピアサポートによる効果を図る。本プログラムにおいて参加学生が行った活動の振り返りを、教職ポートフォリオ内に登録させ、教師になることを目指した自律的な学習スタイルの獲得を目指す。これらの活動に対して、担当教員がアドバイザーとして運営に関わる。
開催場所	23号館1階 コラボレーションスタジオ
実施時期	通年 週1回（各回100分）5時限 もしくは6時限
スケジュール概要	下記の項目について活動する。 ● 地域の小学校の放課後児童クラブにおいて、本学の他のプロジェクトと共同で企画を立案し実施する。企画の際には、教育活動のねらいの設定・教材の作成・指導方法の工夫などについて、参加学生どうしで議論することを重視する。 ● 工大祭において、小中学校の児童生徒を対象とした科学実験教室とプログラミング教室を企画し実施する。企画の際には、教育活動のねらいの設定・教材の作成・指導方法の工夫などについて、参加学生どうしで議論することを重視する。 ● 地域の中学校と高等学校において、放課後に行われる次週教室で生徒からの質問に対応するなどの学習支援を行う。 上記に加え、教育に関する視野を広げることをねらいとして、以下の活動を日常的に行う。 ● 教師の実践力を高めるためにどのような活動をすべきかを議論する。 ● 各教科（工業、情報、理科、数学）の任意の単元を題材とし、各メンバーが学習指導要領を考慮した単元計画を立案し、それぞれの計画案について議論する。 ● その単元計画に基づいて、任意の1コマの学習指導案・教材・板書計画などを作成し実践する。 ● 模擬授業の際には、授業検討会を行う。
外部機関連携	社会福祉法人 愛里巣福祉会、白山市立北辰中学校、金沢高等学校
活動例	【令和6年度活動実績】

	①白山市立北辰中学校の自習支援として、定期テスト前の自習支援や運動会・文化祭の支援を行った。 ②愛里巣福祉会との連携企画「チエノキ」として、野々市市の児童クラブに在籍する児童に対して大学生が様々な体験を提供した。 ③学園祭「工大祭」にて、科学実験教室を開催し、実験ショーや体験活動を実施した。2日間で200名以上の来場者となり、盛況であった。 ④プログラムに参加している学生が企画して、学内で以下の活動を行った。 模擬授業、現場の場面を想定したケーススタディ（たとえば、「中学生最初のホームルーム」、「不登校児童生徒への対応の仕方」）、教育問題に関する議論（たとえば、「中学生以下のスマートフォンの使用を禁止すべきか」） ※上記の活動の詳細については次項の活動報告参照
--	---

6.2 教職支援室での活動

教師を目指す学生同士が気軽に交流できる場として「教職支援室」がある。教職・教育に関する資料や本を揃え、グループでの勉強会、教員採用試験対策などを行う。また、学校現場経験豊富な職員も配置し、模擬授業への助言・指導を行っている。

教師としての実践力向上プログラム 活動報告

● 北辰中学校 自習支援

月に一度、北辰中学校へ出向いて学習支援などを行っている。定期テスト前の自習支援や運動会・文化祭のお手伝いを、先生や生徒と協力して活動している。学生時代では体験できなかった「教師目線での運動会や文化祭」を経験することができる。また、大学の講義では学べない学校現場を、経験することができる。

● 金沢工業大学-愛里巣福祉会連携企画 「チエノキ」

野々市市の児童クラブを運営している社会福祉法人愛里巣福祉会様と連携プロジェクト「チエノキ」を行っている。児童クラブに在籍する児童に対して大学生が様々な体験を提供している。年間の活動内容は以下の通りである。複数の学生プロジェクトが連携して体験企画を行っており、各回の企画プロジェクト名を記載した。

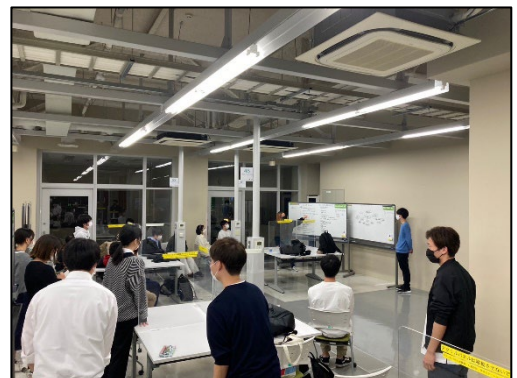
5 月 教師としての実践力向上プログラム	「学校案内」
5 月 おもちゃプロジェクト	「ドレミタッチ」
6 月 サイコロプロジェクト	「振り向きドラゴン」
7 月 SDG s Global Youth Innovators	「ボードゲーム」
8 月 未来の高峰譲吉は君だ！発酵産業活性化プロジェクト	「野菜ロケット」
9 月 防災・減災プロジェクト SoRA	「新聞紙スリッパづくり」
10 月 教師としての実践力向上プログラム	「工大祭招待」
11 月 おもちゃプロジェクト	「計算 RPG」
12 月 未来の高峰譲吉は君だ！発酵産業活性化プロジェクト	「ゾウの歯磨き粉」
2 月 SDG s Global Youth Innovators	「ボードゲーム」
2 月 防災・減災プロジェクト SoRA	「新聞紙髪帽子づくり」
3 月 サイコロプロジェクト	「心理学ワークショップ」

● 工大祭

工大祭では、春休みから Zoom で会議を開き科学実験教室や演示実験の内容を話し合った。2024 年度の工大祭では演示実験のマンネリ化や中央に空いた広いスペースを活用すべく、演示実験は小実験ブースに変更、中央のスペースにはおもちゃプロジェクトと連携してドレミタッチを設置するなど多くの新しいアイデアを取り入れた。その結果、来場者は 2 日合わせて 438 人であり、メンバー全員が満足のいく結果となった。しかし改善点が見受けられる部分もあり、各ブースとの連携が不十分で来場者を待たせてしまうことが何回か見受けられたため、来年度からは来場者の待ち時間を減らせるよう工夫していきたいと思う。

● 普段の活動（毎週水曜日 5 限目）

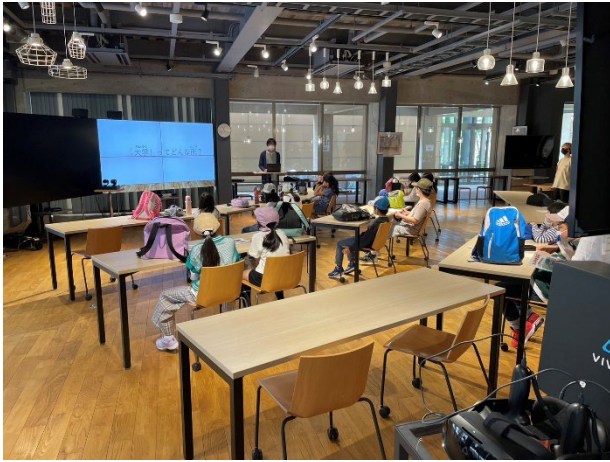
教師としての実践力向上プログラムは、毎週水曜日 5 限目に 23 号館コラボレーションスタジオで活動している。各学期の初めにプログラムメンバーで、教師としての実践力向上には何が必要かを考える。その後、活動内容を決定する会議を行う。そのため、毎年違った活動を行います。企画は自己紹介やディベート、模擬授業など、学生が主体的に企画し実施している。



普段の活動



工大祭



「チエノキ」5月大学案内

「チエノキ」6月「振り向きドラゴン」



「チエノキ」5月どれみたち